

「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者等に対する支援等に関する法律」
 に基づく香川県の調査結果について（確定版）

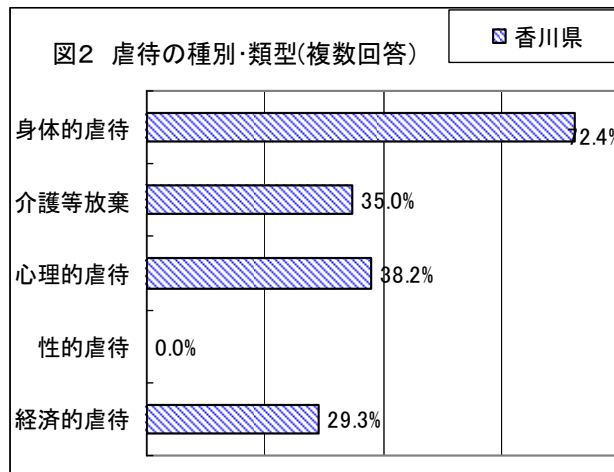
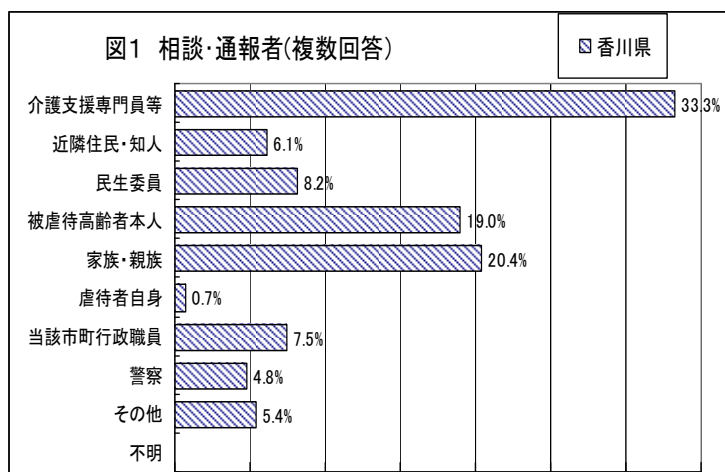
I 平成 18 年度 養介護施設従事者等による高齢者虐待について公表する事例はありません。

II 平成 18 年度 養護者による高齢者虐待(疑いを含む)の相談通報は以下のとおりです。

1 相談・通報対応件数 147件
 虐待を受けた又は受けたとされたと思われる事例 123件（124人）

2 高齢者虐待に関する概要（但し、母数がデーターによって異なります。）

- ①高齢者虐待に関する相談や通報の割合は、介護支援専門員が 33.3%と一番多く、次いで家族・親戚（20.4%）や被虐待高齢者本人（19.0%）となっていた。
- ②虐待の種類については、身体的虐待が 72.4%と多く、次いで心理的虐待（38.2%）、介護等放棄（35.0%）、経済的虐待（29.3%）となっていた。



*図1・図2は、複数回答であるため合計が100%にならない。

③被虐待高齢者は 81.5%が女性であり、年齢は 80 歳～89 歳が 51.6%と半分を占めていた。

図3 被虐待高齢者の性別

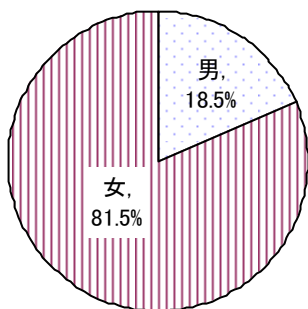
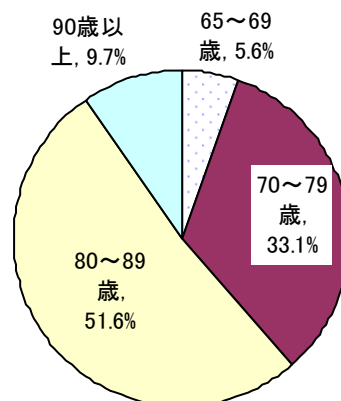


図4 被虐待高齢者の年齢



④被虐待高齢者の78.9%は、虐待者と同居しており、その虐待者として息子が41.6%と一番高く、次いで嫁13.9%、娘13.1%、夫11.7%となっていた。

図5 虐待者との同居

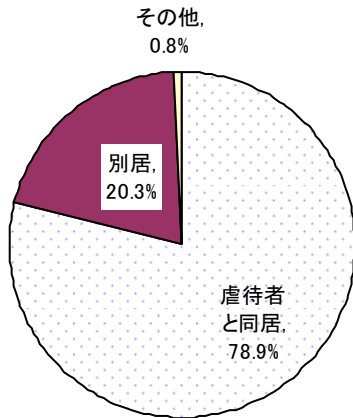
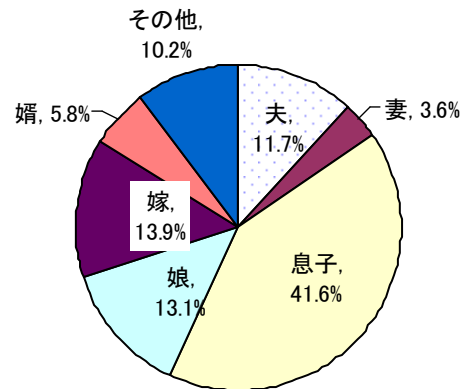


図6 虐待者との関係



⑤被虐待高齢者の60.5%は、介護保険の認定を受けていた。その中で、要介護1は34.7%、要支援1と養介護2、要介護3は16.0%となっており、要支援1から要介護1の高齢者が57.4%を占めていた。

図7 被虐待高齢者の要介護認定申請状況

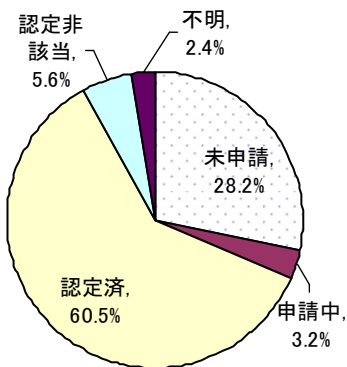
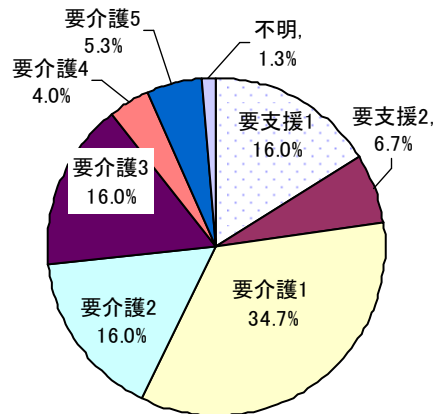
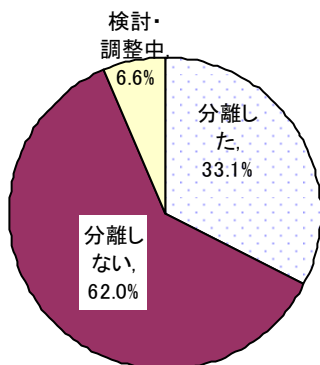


図8 要介護認定者の要介護度区分結果



⑥虐待者と被虐待高齢者への対応について、分離したのは33.1%であり、62.0%は分離せず関係者が双方を支援しながら自宅での生活を続けていた。

図10 虐待への対応状況



平成18年度
 高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律に基づく対応状況等に関する調査結果
 (香川県確定版)
 (平成19年5月厚生労働省調査から)